

2020年1月7日

株式会社国際協力銀行 (JBIC)
代表取締役総裁 前田 匡史 様

**インドネシア西ジャワ州チレボン石炭火力発電事業に係る
JBIC 貸付実行の早急な停止要請
および JBIC との会合に関する意見**

私たちラペル (Rapel, Rakyat Penyelamat Lingkungan : 環境保護民衆) は、貴行が依然私たちとの会合を持ちたいと思われていることをインドネシア環境フォーラム (WALHI) 西ジャワおよび FoE Japan から知り、私たちの意見を貴行にお伝えしたく本書簡をお送りします。

私たちは会合に関する意見を述べる前に、まず、貴行が建設中のチレボン石炭火力発電所 2 号機 (チレボン 2, 1,000 MW) に対する貸付実行を停止するという賢明かつ早急な決断を下すよう要請します。実際、これは私たちがチレボン 2 に強く反対してきていることから、これまでも継続して要求してきたことです。しかし、チレボン 2 に関連した贈収賄事件が公に明るみとなった今、私たちは益々、貴行がチレボン 2 に対するいかなる支援も停止しなくてはならないと考えています。

すでにお聞き及びのとおり、2019 年 4 月以降、チレボン 2 の EPC 契約者の一つである現代建設 (HDEC) が前チレボン県知事に対して多額の不正資金を供与したという贈収賄疑惑が持ち上がっています。インドネシア汚職撲滅委員会 (KPK) は、2019 年 10 月、前チレボン県知事をチレボン 2 に関連した贈収賄を含むマネーロンダリングの容疑者として発表しました。そして、KPK は 2019 年 11 月 15 日、現代建設の元ゼネラルマネージャーであるヘリー・ジョンをチレボン 2 の許認可に関連した同じ贈収賄の容疑者として発表しています。現在、元取締役社長ヘル・デワントを含む、CEPR 社 (チレボン・エナジー・プラサラナ社) の 2 名の上級幹部も海外渡航禁止措置を受けています。

さらに、現代建設から前チレボン県知事への不正資金の流れの詳細は、前チレボン県知事が有罪判決を受けた別の贈収賄事件の判決文書 (2019 年 5 月 22 日) のなかで明確に記述されています。CEPR 社、もしくは、現代建設は、確固たる証拠をもって、同判決文に書かれている内容が真実ではないと説明してきたでしょうか。もし、(そのような) 説明がなされていないのであれば、貴行はそれを深刻に受け止め、KPK が依然捜査中で容疑者を起訴していないとしても、チレボン 2 に対する貸付実行をこれ以上行なってはなりません。贈収賄に関するいくつかの確たる証拠がすでに提示されているような事業への支援を継続するという貴行自身の決定について、貴行は説明責任を果たさなくてはなりません。これは、貴行のレピュテーションの問題でもあるはずで

貴行との会合については、もし会合がジャカルタで行なわれ、同事業や CEP/CEPR 社が提供している CSR プログラムを受け入れるよう貴行の職員が私たちを説得しないのであれば、私たちは貴行の職員の方々とお会いすることができるでしょう。

仮に会合が石炭火力発電所の事業地近くやチレボン市内で行なわれるなら、会合の会場を CEP/CEPR 社に知られないようにすることは不可能です。会場が事業会社の監視下に置かれるような可能性があることを私たちは好みません。

加えて、2017年10月に貴行とお会いした以前の会合での経験から、私たちは、貴行の職員が再びCSRプログラムを提案してくるだけではないかと恐れています。私たちが繰り返してきたとおり、CSRプログラムは私たちにとって真の解決策ではありません。私たちコミュニティが必要としているのは、私たちの生活に必要なきれいな空気ときれいな水であり、より具体的には、漁業活動に必要な健全な沿岸環境です。

もし私たちの間で会合が持たれるなら、私たちの要求は依然としてチレボン2の建設中止であり、したがって、貴行に対する私たちの要求はチレボン2に対する貸付実行の停止です。チレボン1号機が健康、また小規模漁業や塩づくりを含む生計手段に及ぼした甚大な悪影響のため、私たちのコミュニティがどれほど苦しんできたか、そして、現在進められているチレボン2の建設がすでに私たちのコミュニティ（の生活）をどれほど妨げ、小規模漁民の生活をより困難なものにしてきているかを私たちは貴行にお伝えしたいです。さらに、事業会社は同事業が地元のコミュニティに開かれた雇用という良い影響をもたらすことができると主張していますが、現実には、新たな社会紛争が起こってきました。つい最近も、もっと正確に言うのであれば2019年11月末にも、2つの村のコミュニティが雇用機会をめぐる事業地内でお互いに争いあっていました。¹ 実際、そのような争いはチレボン1号機の建設が始まって以来、すでに起き始めていました。そうした争いによって引き起こされた問題は、短期的には解決されたように見えても、長期的にはそうではありません。それは新たな問題、つまり、コミュニティ間に復讐の感情を生み出し、コミュニティの社会文化様式が影響を受けてきたのです。事業会社だけでなく、貴行も私たちの環境や社会文化を破壊してきたことに対する責任を取るべきです。

私たちは、大企業や地元の政治家が巨大な利益を得る腐敗にまみれた汚い事業のため、私たち地元コミュニティが日々の生活のなかでいかに困難に直面してきたかを貴行が熟考してくれることを期待します。

貴行のご理解とご配慮に感謝致します。

(ラペル・チレボンのメンバー2名による署名)

Cc:

財務大臣 麻生 太郎 様

国際協力銀行 環境ガイドライン担当審査役 豊永 晋輔 様、星野 一昭 様

¹ <https://jabar.pojoksatu.id/cirebon/2019/11/30/dugaan-penyebab-terjadinya-tawuran-di-pltu-ii-cirebon-terkait-penerimaan-pekerja-baru/>